

先進地に行く ADVANCED DISTRICT

浄化槽市町村設置型PFI事業を行っている香春町へ

文教厚生 文教厚生常任委員会が11月6日、7日、先進地を視察しました。レポートを紹介します。

| | |
|------|---------|
| 委員長 | 牟田口 美智子 |
| 副委員長 | 中島 和正 |
| 委員 | 西田 勉 |
| | 徳永 豊 |
| | 眞崎 萬次 |

普及率の向上が見込まれる浄化槽市町村整備推進事業(市町村設置型)

市町村設置型PFI導入による事業が進められている香春町で研修を行った。

この事業は、快適な生活環境整備と水環境の保全をより早く進めるため、平成16年4月より26年3月までの10年間を事業期間とし、町内全域を整備地区として進められている。

市町村設置型導入については、住民負担の軽減・整備期間の短縮・維持管理の徹底がメリットとしてあげられるが、担当する人員の確保、



財政面での問題があった。

そこで、香春町ではPFI導入の検討を行った結果、現状の人員体制での導入が可能、事業先細りの改善、事業者の経営ノウハウ等を活用しコスト削減・サービスの提供などが見込めることからPFI方式導入となった。

大木町では、この方式の導入を計画していく上で、設置に要する財政的課題、使用料、長期的な維持管理(耐用年数後の入替)、職員の確保と環境施策を考慮した普及率アップ等の課題が考えられる。十分検討しながら進めていく必要があると感じた。

(株)グラノ24K(ぶどうの樹)レストラン事業

大木町で建設を計画している循環センター2期事業では、「ぶどうの樹」にレストランの経営参画を依頼している。そこで、現状等について視察研修を行った。

この事業所についての現状、取組等のビデオ視聴後、施設

の説明を受けた。

ここでは地産地消をコンセプトに地元の新鮮な魚介類や野菜を使ったビュッフェ形式のレストラン事業が展開されている。

食材については減農薬・有機栽培等を地元の生産者から直接購入されており、規格外品や少量のものなど市場価値が低いものも購入されている。

地元農産物を活用した加工食品の製造販売、地域環境を活かした事業を展開されており、地域農業の経営向上・所得増加や観光客増加等につながっているとのことである。

施設については海・山・緑に囲まれ、都市圏にも隣接し、地理的要因に恵まれたところである。

大木町とはまた違った環境であるが、レストランの形態、地産地消等参考になるところも多いので、地域の特色を活かしたものを作り上げ



生産者の顔がみえるレストラン

ていく必要がある。**道の駅むなかた・あんずの里**

施設は1万3,691㎡の敷地に1,517㎡の木造平屋の建物が立ち、物産直売所・レストラン・情報提供施設・トイレが整備されている。管理については指定管理者に委託されており、物産直売所には農産物、水産物、加工食品など品数が豊富で午後2時ぐらいであったが多くの買い物客が訪れていた。

また、隣接の福津市の道の駅では、近距離に施設ができたことにより買い物客が減少しているようで公共施設でもあり、市町間の連携も必要であると感じた。